

## Oxford Instruments NanoScience でのインターンシップを終えて

理学系研究科物理学専攻 博士 1年 丹羽宏彰

2019年7月1日から9月6日の10週間に渡って、私はイギリスのOxfordにあるOxford Instruments NanoScience (OINS)において長期インターンに従事した。OINSは高性能な低温・強磁場環境を実現する実験機器を開発し提供しているリーディングカンパニーの一つである。OINSの機器は私自身の大学での研究も含め基礎研究・応用研究のあらゆる場面で使用されており、中でも最近は極低温環境における量子計算プラットフォームとしての運用が注目を集めている。

インターンシップではOINSの新プロダクト導入(NPI)チームに配属され、極低温実験プラットフォームの研究開発プロジェクトに加わった。その中で、運用性能向上に向けた部品の性能評価を実験・理論の両方の立場から取り組み、一定の成果をあげることが出来た。

普段私が大学で行っている研究とはまた一味違うテーマであったが、このプロジェクトを通じ大学における学術的な研究と製品化を目指す研究開発との違いを身をもって体感した。また、企業におけるプロジェクトマネジメントなど大学では経験できない部分も学び大変参考になった。そして、長期間過ごす中で海外の企業における人々のワークスタイルを知り、イギリスの文化などにも多く触れることができた。私自身のキャリアパスを考える上でも貴重な体験であり、ぜひ今後活かしていきたいと考えている。

最後に、私を快く受け入れあらゆる面でサポートしてくださったOINSのNPIチームのスタッフの方々、インターンシップを企画してくださったOxford Instruments KKの渡辺清氏と東京大学フotonサイエンス研究機構の湯本潤司氏、そしてインターンシップを支援してくださった東京大学GMSIに感謝申し上げます。



(左) Oxford近郊にあるOxford Instruments NanoScienceの研究開発拠点。

(右) Oxford市街地の名所のひとつであるRadcliffe Cameraの風景。